

平成28年度

病害虫発生予察情報 第7号

注意報第2号

北海道病害虫防除所 平成 28 年7月7日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

小豆でマメアブラムシが早発、多発！ 発生の多いほ場では、すみやかな防除を！

長沼町および芽室町の各予察ほ場の小豆で、マメアブラムシが平年より早く認められています。特に芽室町では密度上昇が平年より早く、7月5日時点で寄生株率が46.0%（平年：19.2%）に達しました。

本種は、生育に好適な高温条件が続くと短期間で密度が上昇します。また高密度な寄生により吸汁加害された小豆は、生育が抑制されます。

播種時に殺虫剤による種子塗沫を行ったほ場では、本種の寄生が低く抑えられる傾向にありますが、一部のほ場では種子塗沫を行っていても本種の密度上昇が始まっています。

また、各農業試験場の定期作況報告によると、6月の多雨・寡照により小豆の初期生育が遅延しており、そのような小豆では多寄生した場合に被害が激しくなる恐れがあります。

本種による被害を防ぐためにもほ場を定期的に観察し、発生の多いほ場ではすみやかな防除を心がけましょう。

1. 発生地域 全道

2. 発生程度 多

3. 注意報発令の根拠

- 1) 初発期は芽室町で平年より早く、長沼町でやや早かった（表1）。
- 2) 長沼町および芽室町の予察ほ場において、平年より多い発生が認められている（表2）。
- 3) 密度上昇が平年よりも早く、小豆の生育が進んでいない段階で高密度に寄生している。
- 4) 札幌管区气象台より6月30日付けで発表された1ヶ月予報によると、向こう1ヶ月の気温は平年より高い確率が50%と予報されており、今後もマメアブラムシの増殖に好適な条件が続くものと見込まれる。

4. 防除対策

- 1) 殺虫剤の茎葉散布を行う。使用薬剤は「北海道農作物病害虫・雑草防除ガイド」に準拠して選定する。
- 2) 薬剤散布量が不十分な場合は防除効果が劣ることがあるため、薬剤散布にあたっては、薬液がアブラムシに十分量かかるよう心がける。
- 3) 薬剤を散布しても、短期間のうちに密度が回復することがあるので、定期的にほ場を観察し、密度の回復が認められる場合には異なる系統の薬剤を用いて追加防除を行う。

表 1 予察ほにおけるマメアブラムシの初発期

	長沼		芽室		訓子府	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
初発期	6. III	6. IV	6. III	6. VI	7. I	6. VI
平年数	9		9		8	

注：ローマ数字は半月を示す

表 2 予察ほにおけるマメアブラムシの寄生株率（％）

月. 半月	長沼		芽室		訓子府	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6. II	未調査	0.0	0	0.0	未調査	—
III	4	0.7	3	0.0	0	0.0
IV	28	9.0	4	0.4	0	0.7
V	36	15.8	6	1.3	0	3.5
VI	16	21.3	18	8.2	0	9.5
7. I	16	32.4	46	19.2	4	9.5
平年数	9		9		8	



写真. マメアブラムシが高密度に寄生した小豆個体